

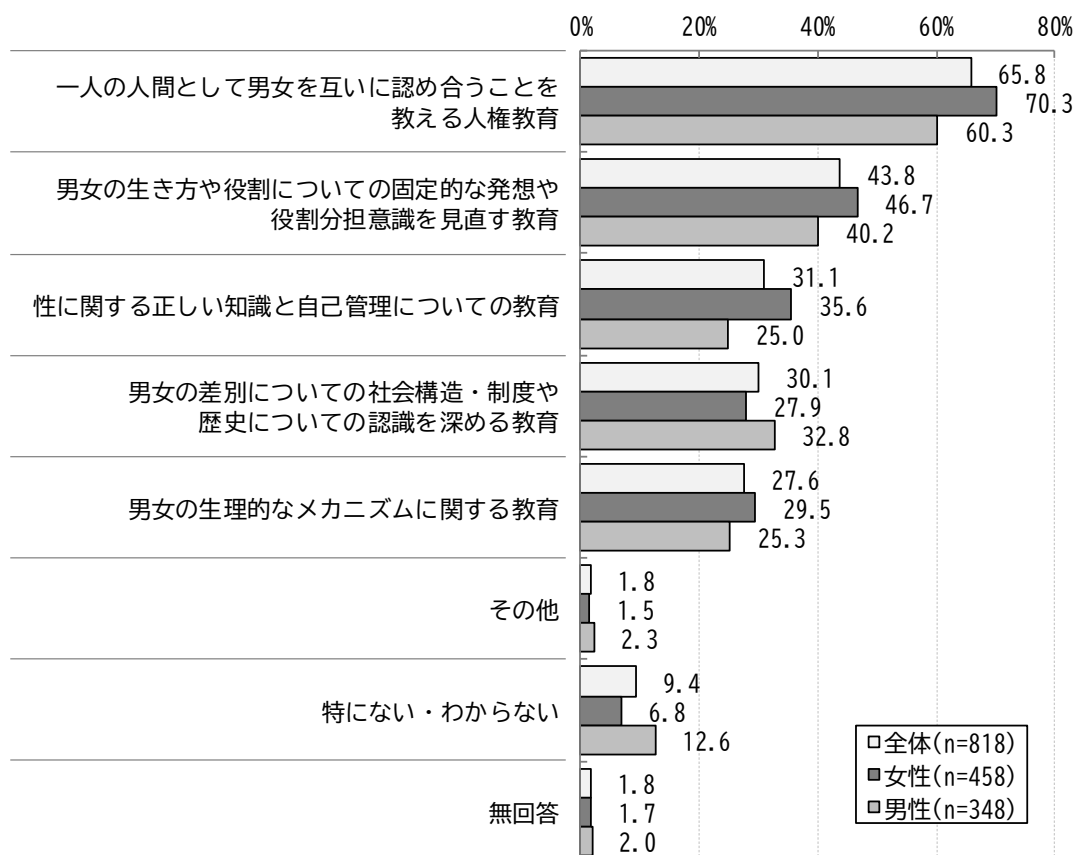
7 教育について

(27) 男女共同参画社会のために重要な教育内容

問 16 男女共同参画社会の形成のために行う教育の内容についてはどのようなことが重要だと思いますか。（3つまで選択）

男女共同参画社会のために重要な教育内容について、「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」（65.8%）が最も高く、次いで「男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育」（43.8%）、「性に関する正しい知識と自己管理についての教育」（31.1%）となっています。

性別にみると、女性では「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」や「性に関する正しい知識と自己管理についての教育」を重視する割合が男性より高くなっています。



年代別にみると、いずれの年代でも「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が最も高くなっており、特に60歳以上でその傾向が顕著です。また、30～39歳では「男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育」が半数を超え、他の年代に比べて高い傾向にあります。さらに、29歳以下では「性に関する正しい知識と自己管理についての教育」が他の年代より高くなっています。

前回調査と比較すると、「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が7.7ポイント低下しています。一方で、「性に関する正しい知識と自己管理についての教育」が3.3ポイント上昇しています。

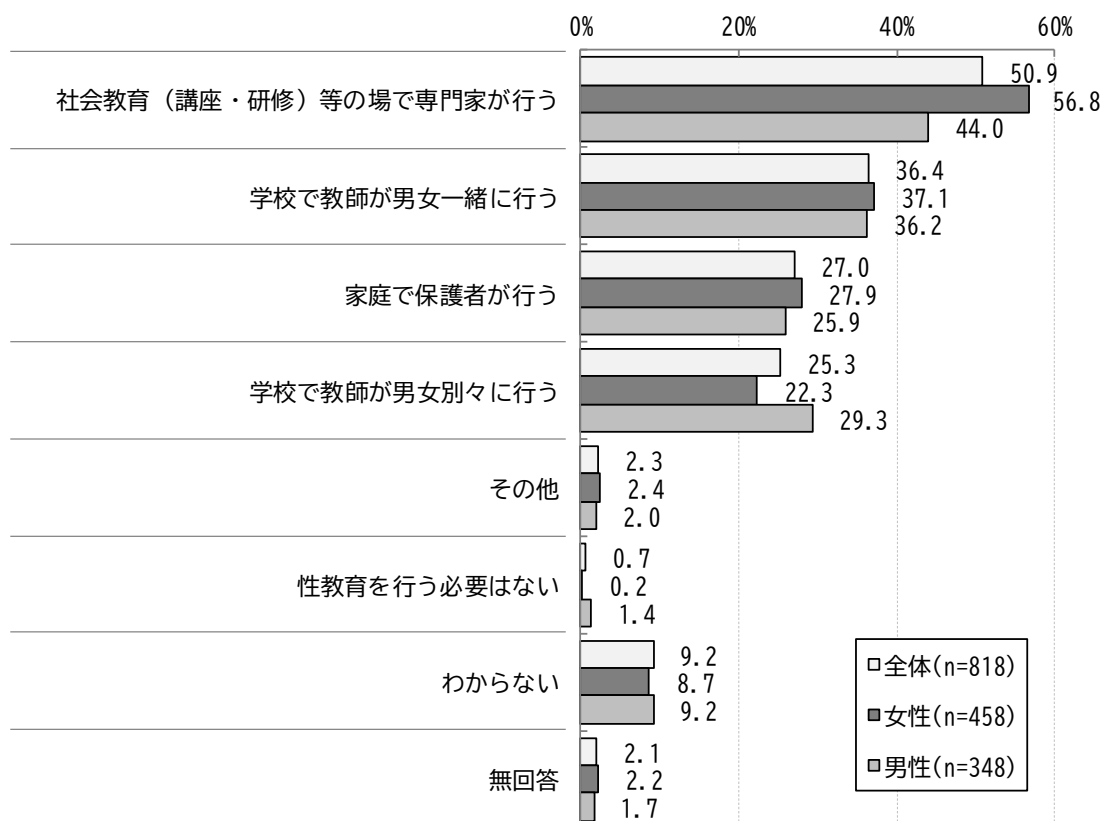
	一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育	男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育	性に関する正しい知識と自己管理についての教育	男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育	男女の生理的なメカニズムに関する教育	その他	特にない・わからない	無回答	
今回調査(n=818)	65.8	43.8	31.1	30.1	27.6	1.8	9.4	1.8	
前回調査(n=521)	73.5	46.3	27.8	29.8	27.8	2.5	-	4.2	
女性	今回(n=458)	70.3	46.7	35.6	27.9	29.5	1.5	6.8	1.7
	前回(n=267)	77.9	45.3	30.7	26.6	28.5	1.5	0.4	3.7
男性	今回(n=348)	60.3	40.2	25.0	32.8	25.3	2.3	12.6	2.0
	前回(n=213)	66.7	50.2	23.0	34.7	27.7	3.8	2.3	2.8
29歳以下(n=79)	48.1	39.2	40.5	34.2	30.4	1.3	11.4	2.5	
30～39歳(n=93)	59.1	50.5	39.8	32.3	26.9	2.2	8.6	1.1	
40～49歳(n=112)	62.5	47.3	35.7	23.2	36.6	1.8	6.3	0.9	
50～59歳(n=162)	67.3	47.5	30.2	29.0	32.1	1.2	7.4	0.0	
60～69歳(n=169)	73.4	44.4	26.0	33.1	24.9	1.8	9.5	2.4	
70歳以上(n=195)	71.8	37.4	26.2	30.3	21.5	2.6	10.8	3.1	

(28) 子どもの性教育の望ましい方法

問 17 適切な性教育の重要性が言われていますが、あなたは子どもの性教育はどのように行うのが望ましいと思いますか。(〇は2つまで)

子どもの性教育の望ましい方法について、「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」（50.9%）が最も高く、次いで「学校で教師が男女一緒に行う」（36.4%）、「家庭で保護者が行う」（27.0%）となっています。

性別にみると、女性では「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」を重視する割合が高く、男女差が大きくなっています。一方、男性では「学校で教師が男女別々に行う」を選択する割合が女性よりやや高い傾向がみられます。



年代別にみると、いずれの年代でも「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」が最も高くなっており、特に30～39歳でその傾向が顕著です。また、40～49歳では「学校で教師が男女一緒に行う」が他の年代に比べて高く、4割を超えています。さらに、30～39歳では「家庭で保護者が行う」も他の年代より高い傾向にあります。

前回調査と比較すると、「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」が4.8ポイント上昇しています。一方で、「学校で教師が男女別々に行う」が3.9ポイント低下しています。

		社会教育 （講座・研 修）等の場 で専門家が行う	学校で教師 が男女一緒 に行う	家庭で保護 者が行う	学校で教師 が男女別々 に行う	その他	性教育を行 う必要はな い	わからない	無回答
今回調査(n=818)		50.9	36.4	27.0	25.3	2.3	0.7	9.2	2.1
前回調査(n=521)		46.1	33.8	28.8	29.2	2.3	1.2	7.3	3.8
女性	今回(n=458)	56.8	37.1	27.9	22.3	2.4	0.2	8.7	2.2
	前回(n=267)	47.6	33.3	30.3	30.3	2.6	0.7	6.4	3.4
男性	今回(n=348)	44.0	36.2	25.9	29.3	2.0	1.4	9.2	1.7
	前回(n=213)	45.5	34.3	27.7	29.6	1.9	1.4	8.5	2.3
29歳以下(n=79)		41.8	39.2	25.3	29.1	3.8	0.0	6.3	3.8
30～39歳(n=93)		55.9	35.5	35.5	22.6	2.2	0.0	8.6	1.1
40～49歳(n=112)		50.9	43.8	29.5	32.1	2.7	0.0	5.4	0.9
50～59歳(n=162)		50.0	29.6	29.0	28.4	0.0	0.0	9.9	1.9
60～69歳(n=169)		53.8	34.9	27.2	18.3	3.6	2.4	8.9	2.4
70歳以上(n=195)		50.8	39.0	21.0	25.1	2.6	1.0	11.3	2.1

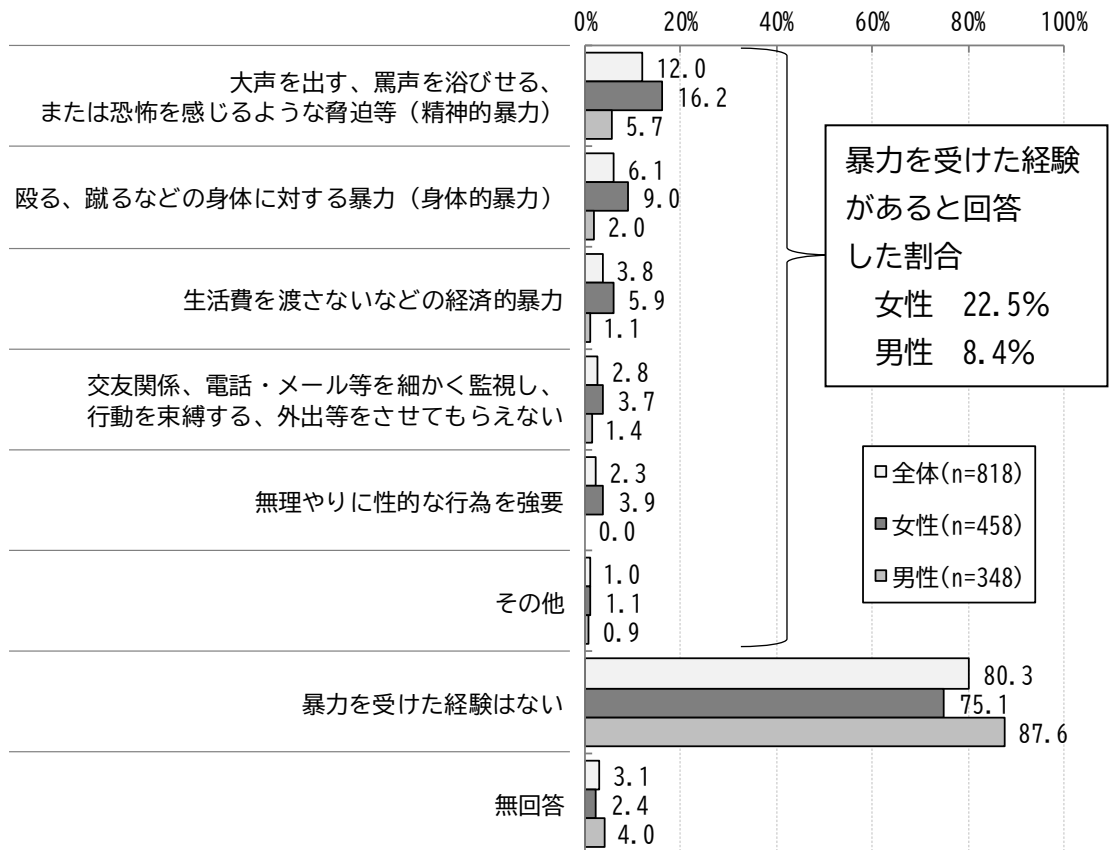
8 男女の人権について

(29) 配偶者や交際相手からの暴力経験

問 18 あなたは、配偶者や交際相手等から暴力を受けた経験はありますか。(〇はいくつでも)

配偶者や交際相手からの暴力経験について、「暴力を受けた経験はない」(80.3%)が最も高くなっています。受けた暴力の内容としては、「大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等(精神的暴力)」(12.0%)が最も高く、次いで「殴る、蹴るなどの身体に対する暴力(身体的暴力)」(6.1%)となっています。

性別にみると、「暴力を受けた経験がある」と回答した割合は女性が22.5%、男性が8.4%と女性が14.1ポイント高くなっています。



※暴力を受けたと回答した割合：全回答者のうち「暴力を受けた経験はない」及び「無回答」を除いて算出しています。

年代別にみると、いずれの年代でも「暴力を受けた経験はない」が最も高くなっています。一方で、暴力を受けた経験がある人の中では、50～59歳で「大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等（精神的な暴力）」が他の年代に比べて高い傾向にあります。また、30～39歳では「殴る、蹴るなどの身体に対する暴力（身体的暴力）」や「生活費を渡さないなどの経済的暴力」が他の年代に比べて高くなっています。

前回調査と比較すると、「暴力を受けた経験はない」が14.3ポイント上昇しています。

	大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等（精神的暴力）	殴る、蹴るなどの身体に対する暴力（身体的暴力）	生活費を渡さないなどの経済的暴力	交友関係、電話・メール等を細かく監視し、行動を束縛する、外出等をさせてもらえない	無理やりに性的な行為を強要	その他	暴力を受けた経験はない	無回答
今回調査(n=818)	12.0	6.1	3.8	2.8	2.3	1.0	80.3	3.1
前回調査(n=521)	11.7	7.3	4.2	3.6	2.3	5.6	66.0	12.7
女性	今回(n=458)	16.2	9.0	5.9	3.7	3.9	75.1	2.4
	前回(n=267)	17.6	10.5	7.9	6.4	4.1	58.1	12.4
男性	今回(n=348)	5.7	2.0	1.1	1.4	0.0	87.6	4.0
	前回(n=213)	4.2	3.3	0.0	0.9	0.0	77.9	10.3
29歳以下(n=79)	7.6	6.3	1.3	6.3	3.8	2.5	83.5	1.3
30～39歳(n=93)	10.8	8.6	7.5	4.3	1.1	2.2	80.6	3.2
40～49歳(n=112)	13.4	5.4	5.4	6.3	3.6	0.0	82.1	0.0
50～59歳(n=162)	19.8	8.6	3.1	2.5	2.5	0.0	74.7	0.6
60～69歳(n=169)	10.7	4.7	3.0	0.6	3.0	1.8	81.1	4.1
70歳以上(n=195)	8.2	4.1	3.6	1.0	0.5	0.5	82.1	6.2

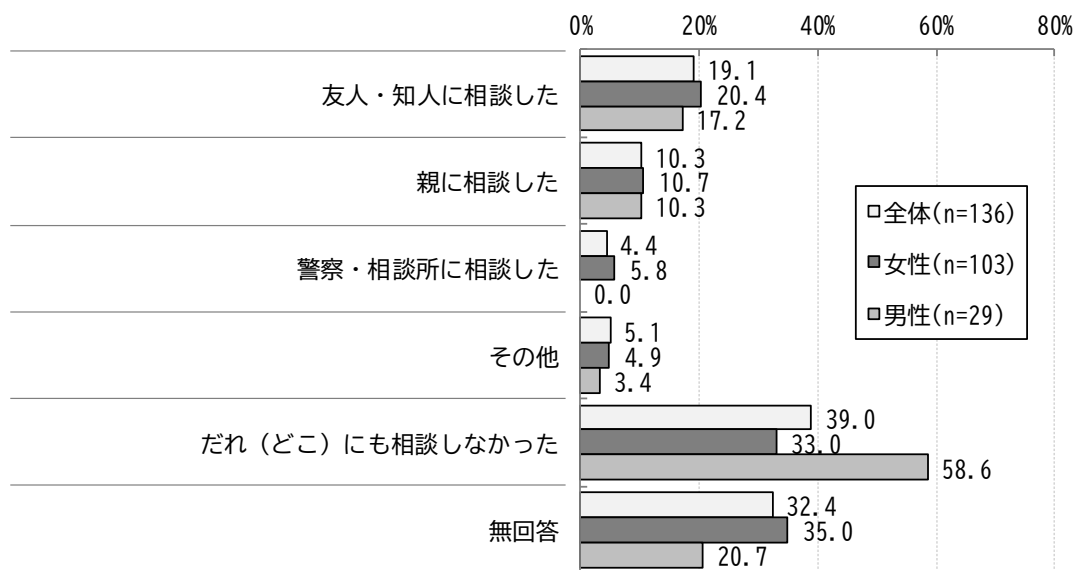
(30) 暴力を受けた際の相談先

【問 18 で（暴力を受けた経験がある）を選択した方】

問 18-1 暴力を受けたとき、だれ（どこ）かに相談しましたか。（〇はいくつでも）

暴力を受けた際の相談先について、「だれ（どこ）にも相談しなかった」（39.0%）が最も高くなっています。相談した中では、「友人・知人に相談した」（19.1%）が最も高く、次いで「親に相談した」（10.3%）となっています。

性別にみると、男性では「だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した割合が女性より 25.6 ポイント高い 58.6%と 6 割近くになっています。



年代別にみると、いずれの年代でも「だれ（どこ）にも相談しなかった」が高い割合を占めていますが、特に 50～59 歳でその傾向が顕著です。一方で、相談した人のなかでは、49 歳以下の各年代で「友人・知人に相談した」が最も高くなっており、特に 29 歳以下や 40～49 歳で高い傾向にあります。また、29 歳以下では「親に相談した」も他の年代に比べて高くなっています。

前回調査と比較すると、「だれ（どこ）にも相談しなかった」が 5.7 ポイント低下しています。一方で、「友人・知人に相談した」は 9.1 ポイント低下しています。

	友人・知人に相談した	親に相談した	警察・相談所に相談した	その他	だれ（どこ）にも相談しなかった	無回答
今回調査(n=136)	19.1	10.3	4.4	5.1	39.0	32.4
前回調査(n=85)	28.2	18.8	5.9	7.1	44.7	7.1
女性						
今回(n=103)	20.4	10.7	5.8	4.9	33.0	35.0
前回(n=65)	32.3	20.0	4.6	7.7	40.0	9.2
男性						
今回(n=29)	17.2	10.3	0.0	3.4	58.6	20.7
前回(n=15)	13.3	13.3	6.7	6.7	60.0	0.0
29歳以下(n=12)	33.3	25.0	8.3	8.3	25.0	25.0
30～39歳(n=15)	26.7	13.3	6.7	0.0	26.7	40.0
40～49歳(n=20)	30.0	20.0	5.0	10.0	25.0	35.0
50～59歳(n=40)	20.0	7.5	5.0	5.0	52.5	17.5
60～69歳(n=25)	4.0	8.0	4.0	8.0	48.0	32.0
70歳以上(n=23)	13.0	0.0	0.0	0.0	30.4	56.5

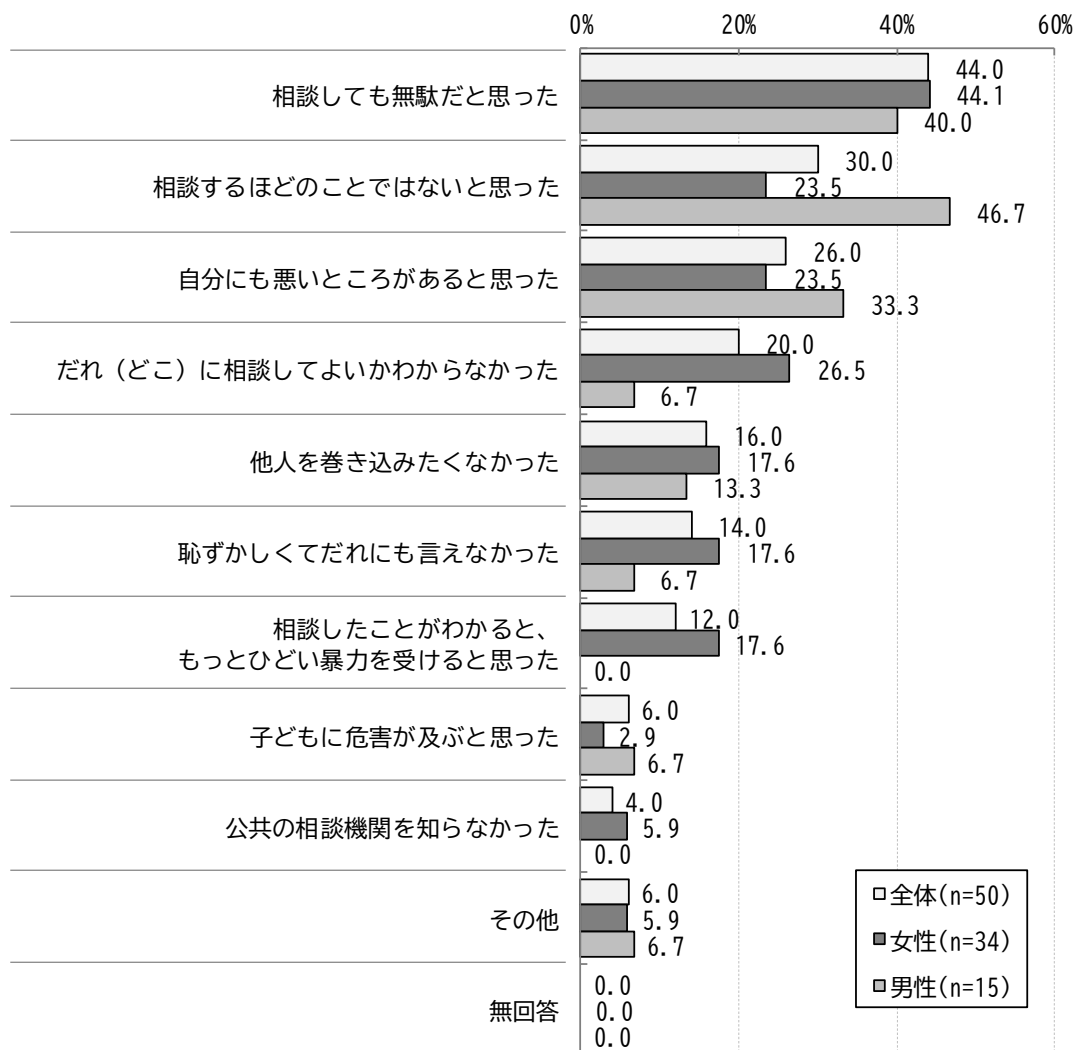
(31) 相談しなかった理由

【問 18-1 で（だれ（どこ）にも相談しなかった）を選択した方】

問 18-2 だれ（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（〇はいくつでも）

相談しなかった理由について、「相談しても無駄だと思った」（44.0%）が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」（30.0%）、「自分にも悪いところがあった」（26.0%）となっています。

性別にみると、男性では「相談するほどのことではないと思った」割合が高く、女性では「だれ（どこ）に相談してよいかわからなかった」割合が高い傾向がみられます。



前回調査と比較すると、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が11.4ポイント、「だれ(どこ)に相談してよいかわからなかった」が9.5ポイント、「相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思った」が9.4ポイント上昇しています。一方で、「他人を巻き込みたくなかった」は10.3ポイント低下しています。

本設問は回答者数が少ないため、年代別の結果については参考値として掲載しています。

		相談しても無駄だと思った	相談するほどのことではないと思った	自分にも悪いところがあると思った	だれ(どこ)に相談してよいかわからなかった	他人を巻き込みたくなかった	恥ずかしくてだれにも言えなかった	相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思った	子どもに危害が及ぶと思った	公共の相談機関を知らなかった
	今回調査(n=50)	44.0	30.0	26.0	20.0	16.0	14.0	12.0	6.0	4.0
	前回調査(n=38)	39.5	28.9	34.2	10.5	26.3	2.6	2.6	0.0	7.9
女性	今回(n=34)	44.1	23.5	23.5	26.5	17.6	17.6	17.6	2.9	5.9
	前回(n=26)	42.3	23.1	30.8	7.7	34.6	3.8	3.8	0.0	11.5
男性	今回(n=15)	40.0	46.7	33.3	6.7	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0
	前回(n=23)	33.3	33.3	55.6	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	29歳以下(n=2)	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	30~39歳(n=4)	50.0	50.0	25.0	50.0	75.0	25.0	0.0	25.0	25.0
	40~49歳(n=4)	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0
	50~59歳(n=20)	40.0	50.0	10.0	10.0	10.0	10.0	15.0	5.0	0.0
	60~69歳(n=12)	58.3	8.3	25.0	16.7	16.7	16.7	8.3	0.0	0.0
	70歳以上(n=7)	28.6	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

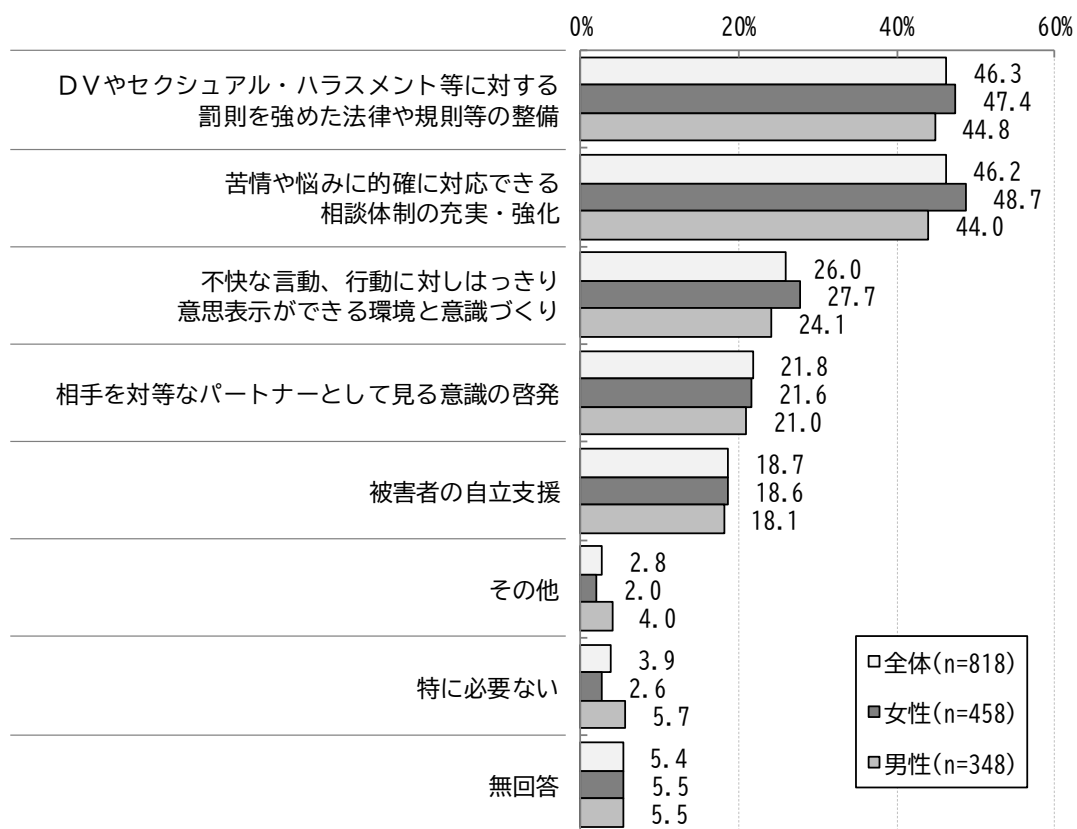
		その他	無回答
	今回調査(n=50)	6.0	0.0
	前回調査(n=38)	5.3	2.6
女性	今回(n=34)	5.9	0.0
	前回(n=26)	7.7	3.8
男性	今回(n=15)	6.7	0.0
	前回(n=23)	0.0	0.0
	29歳以下(n=2)	0.0	0.0
	30~39歳(n=4)	0.0	0.0
	40~49歳(n=4)	25.0	0.0
	50~59歳(n=20)	10.0	0.0
	60~69歳(n=12)	0.0	0.0
	70歳以上(n=7)	0.0	0.0

(32) DVやセクハラをなくすために行政に必要な取組

問 19 ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメント等の人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、行政の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

DVやセクハラをなくすために行政に必要な取組について、「DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備」（46.3%）が最も高く、次いで「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実・強化」（46.2%）、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」（26.0%）となっています。

性別にみると、男女で大きな差はみられません。



年代別にみると、69歳以下の各年代では「DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備」が最も高く、特に50～59歳や40～49歳、30～39歳でその傾向が顕著でいずれも5割を超えています。一方で、70歳以上では「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実・強化」が最も高くなっています。また、29歳以下では「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が他の年代に比べて高くなっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

	DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備	苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実・強化	不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり	相手を対等なパートナーとして見る意識の啓発	被害者の自立支援	その他	特に必要ない	無回答	
今回調査(n=818)	46.3	46.2	26.0	21.8	18.7	2.8	3.9	5.4	
前回調査(n=521)	48.0	48.8	28.2	24.0	-	3.1	2.1	9.6	
女性	今回(n=458)	47.4	48.7	27.7	21.6	18.6	2.0	2.6	5.5
	前回(n=267)	52.1	50.2	28.5	23.6	-	2.6	2.6	7.1
男性	今回(n=348)	44.8	44.0	24.1	21.0	18.1	4.0	5.7	5.5
	前回(n=213)	46.0	48.8	29.6	25.4	-	2.8	3.7	8.9
29歳以下(n=79)	49.4	35.4	30.4	19.0	12.7	5.1	7.6	5.1	
30～39歳(n=93)	52.7	50.5	28.0	18.3	10.8	5.4	4.3	4.3	
40～49歳(n=112)	53.6	42.0	29.5	18.8	15.2	4.5	2.7	5.4	
50～59歳(n=162)	54.9	50.0	21.0	17.9	24.1	0.6	2.5	3.7	
60～69歳(n=169)	47.3	45.0	27.2	22.5	20.7	0.6	4.7	5.9	
70歳以上(n=195)	29.7	50.8	25.1	28.2	20.0	3.6	3.6	6.2	

9 男女共同参画社会の形成について

(33) 男女共同参画に関する関心度

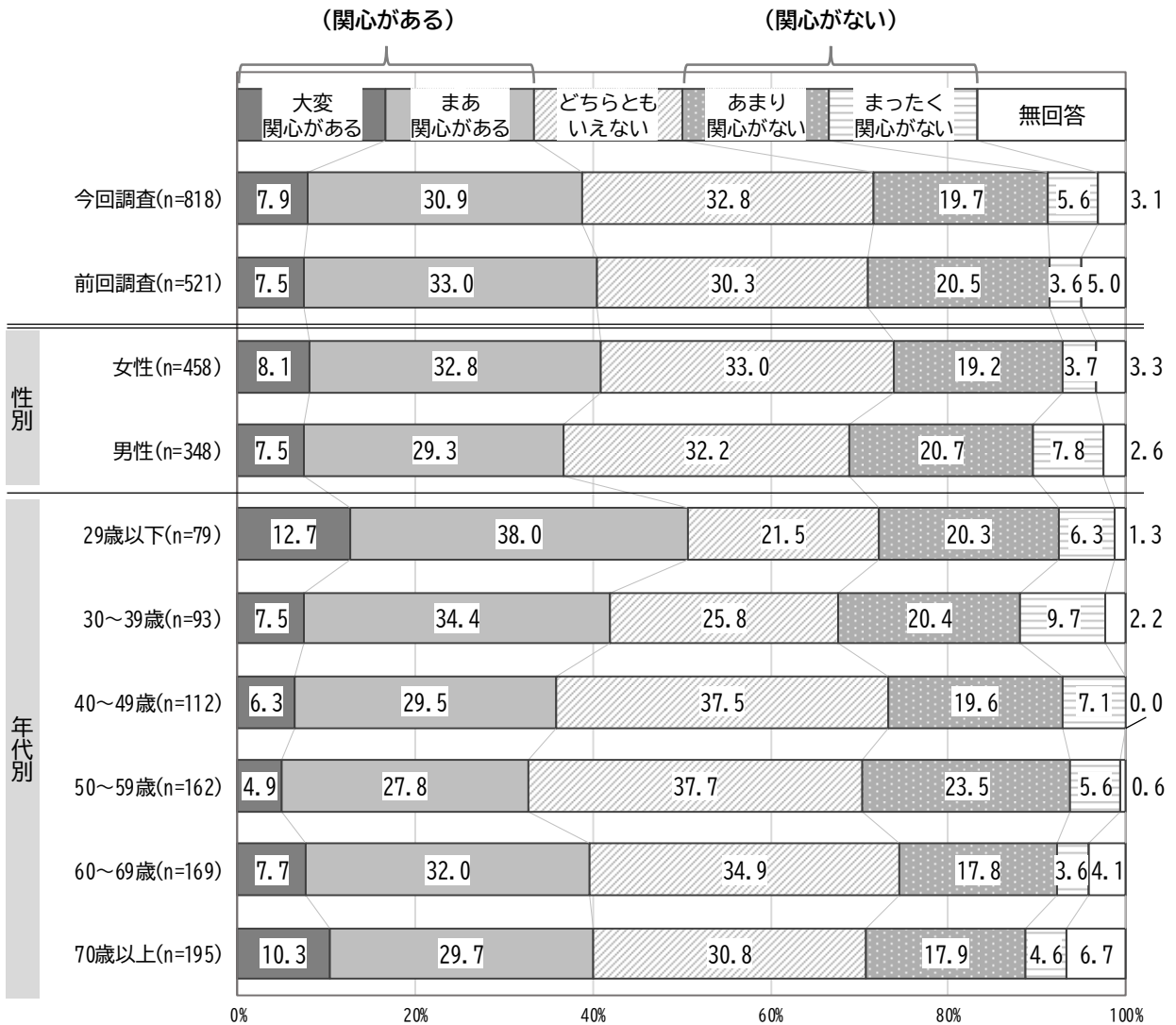
問 20 男女共同参画社会基本法に加え、女性活躍推進法が制定され、男女共同参画社会の形成に関する動きが高まっています。あなたはこのような男女共同参画に関する動きについて、どの程度関心をお持ちですか。（〇は1つ）

男女共同参画に関する関心度について、「どちらともいえない」（32.8%）が最も高くなっています。『関心がある』が38.8%、『関心がない』が25.3%と、関心がある方が高くなっています。

性別にみると、女性は男性に比べて『関心がある』と回答した割合が高い一方、男性は『関心がない』と回答した割合が高く、意識の差が出ています。

年代別にみると、『関心がある』と回答した割合は29歳以下で最も高く、5割を超えています。一方で、40～49歳や50～59歳では『関心がある』が他の年代に比べて低く、「どちらともいえない」と回答する割合が比較的高くなっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※『関心がある』（「大変関心がある」と「まあ関心がある」の合計）

※『関心がない』（「あまり関心がない」と「全く関心がない」の合計）

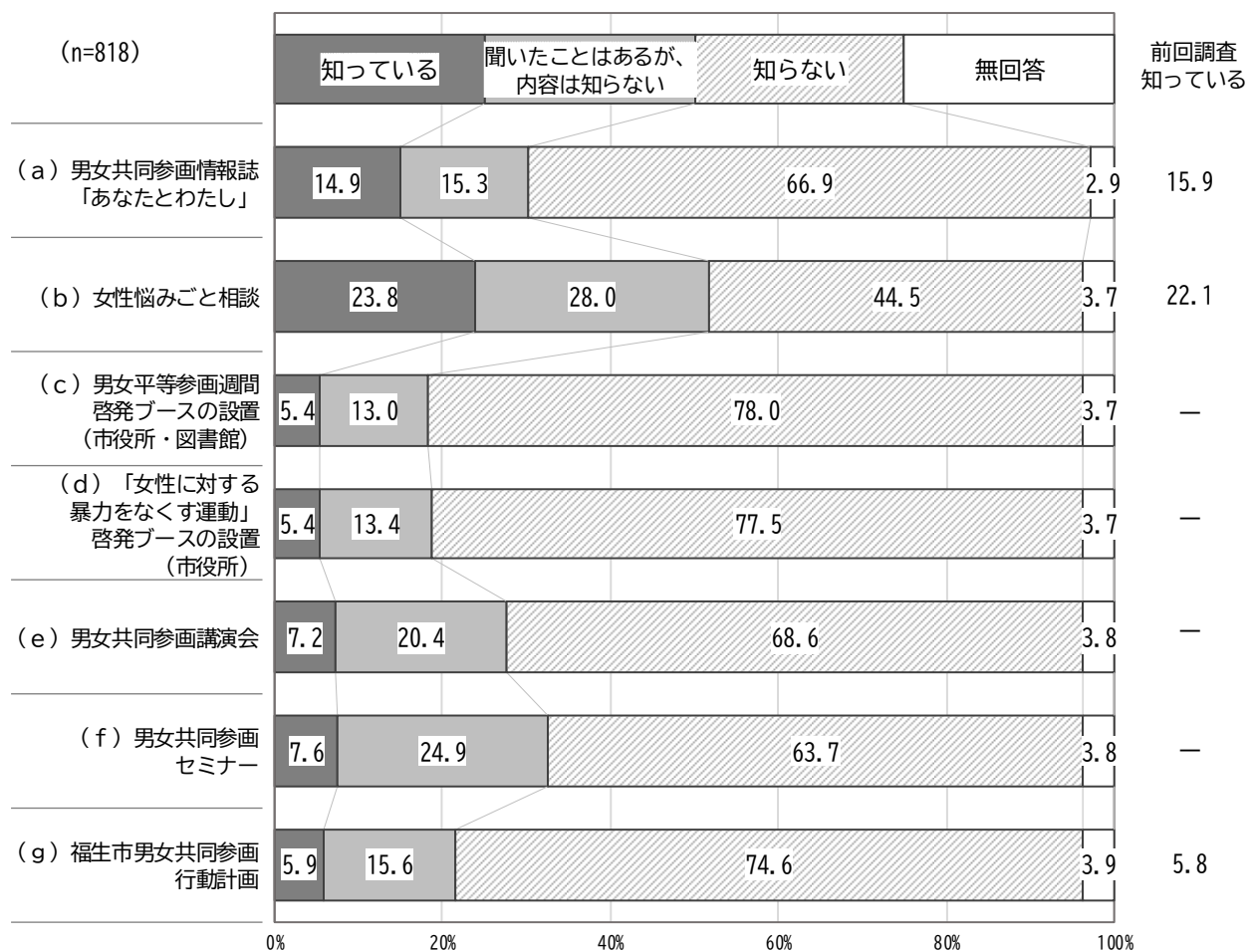
(34) 男女共同参画に関する事業や用語の認知度

問 21 あなたは、次の「事柄」や「言葉」を知っていますか。(aからvそれぞれ○は1つ)

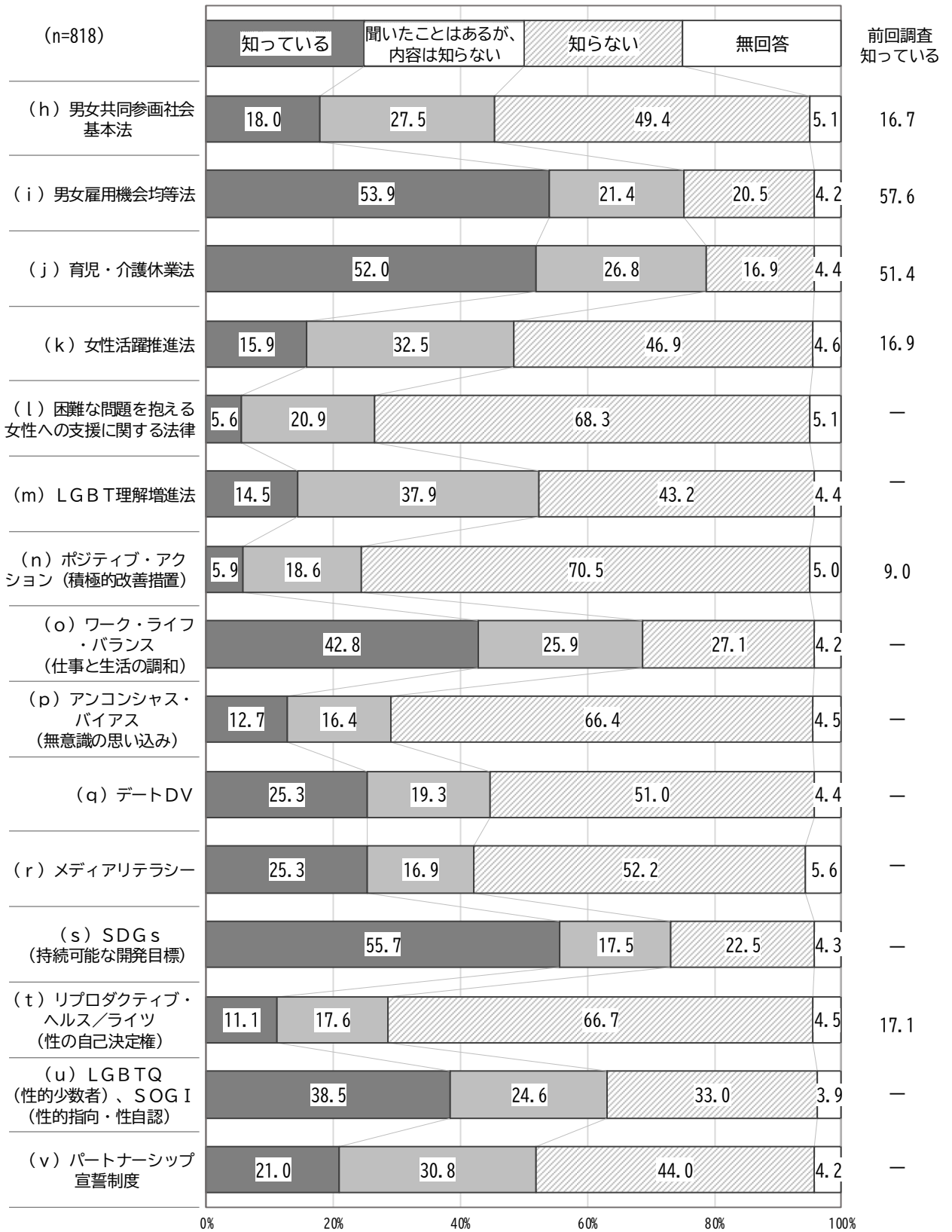
男女共同参画に関する事業の認知度について、「(b) 女性悩みごと相談」(23.8%)が最も高く、次いで「(a) 男女共同参画情報誌「あなたとわたし」」(14.9%)、「(f) 男女共同参画セミナー」(7.6%)となっています。

男女共同参画に関する用語の認知度について、「(s) SDGs (持続可能な開発目標)」(55.7%)が最も高く、次いで「(i) 男女雇用機会均等法」(53.9%)、「(j) 育児・介護休業法」(52.0%)となっています。

■ 男女共同参画に関する事業の認知度

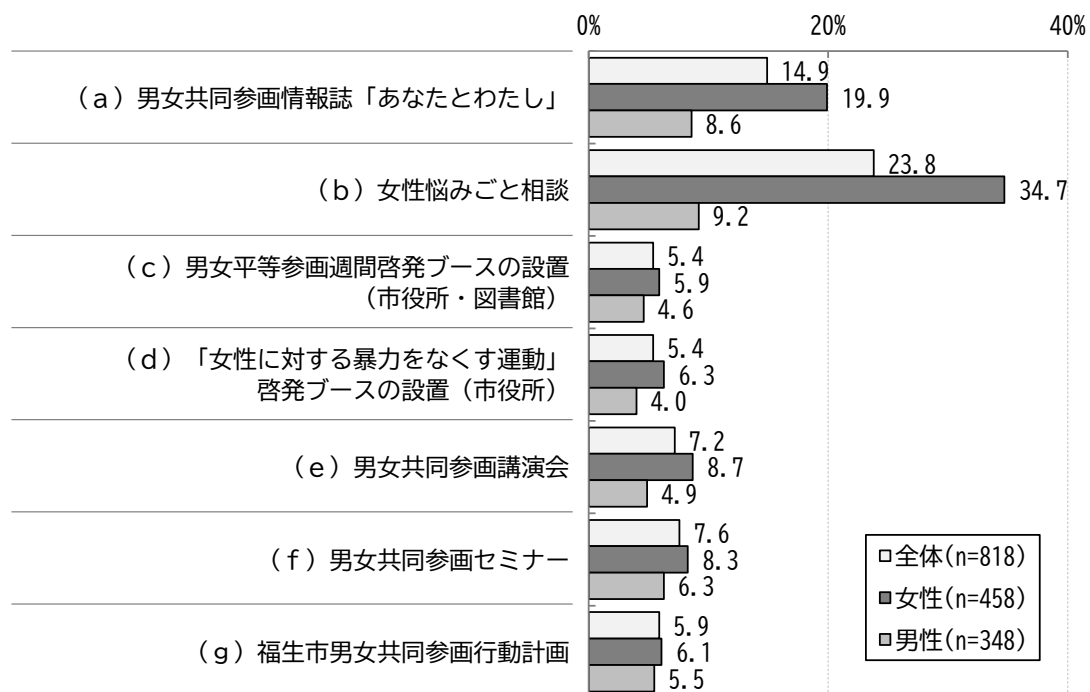


■ 男女共同参画に関する用語の認知度



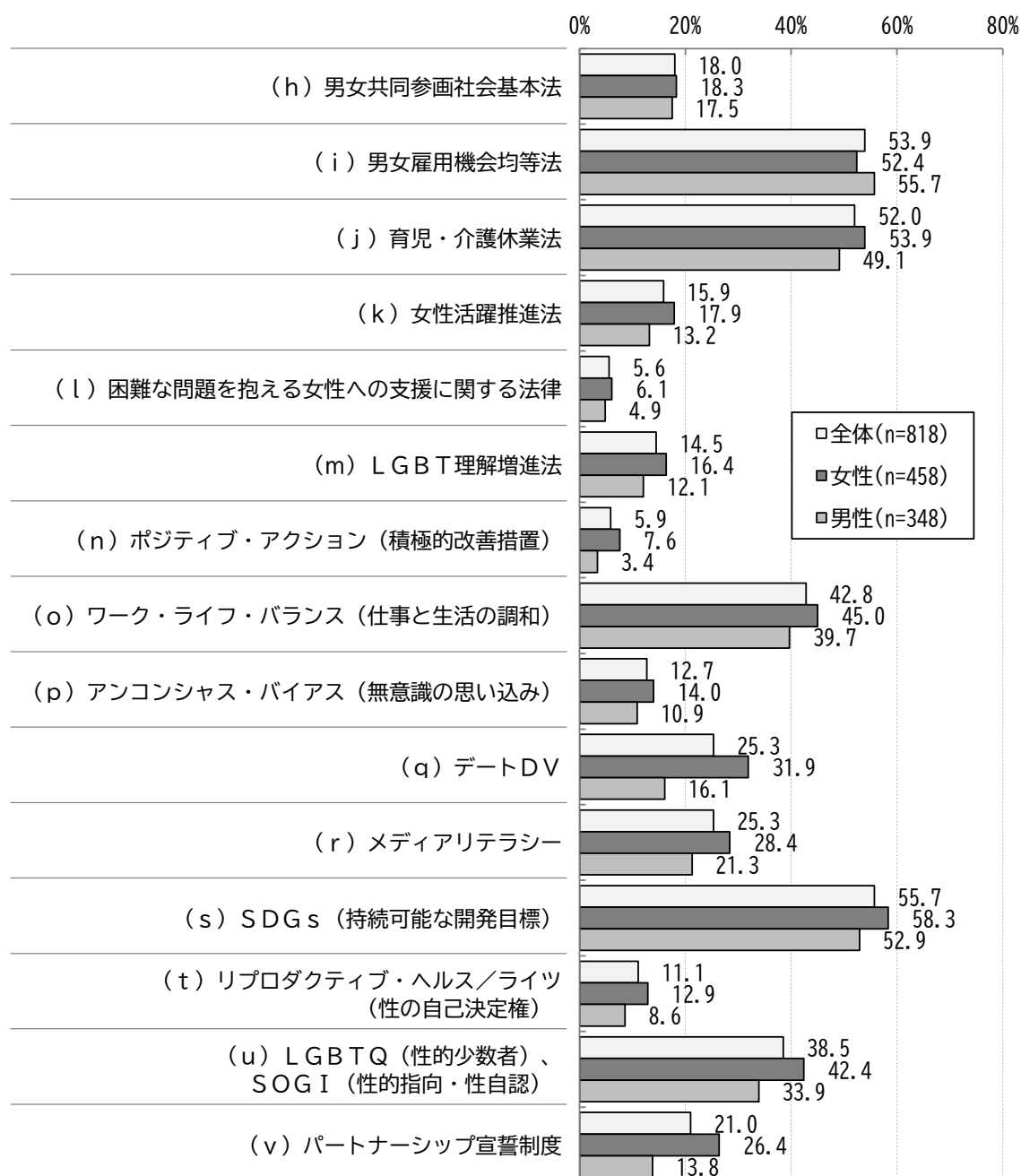
■ 各事業の「知っている」と回答した割合

各事業の「知っている」と回答した割合を性別にみると、全体として、情報誌や相談事業を中心に女性の認知度が先行しており、特に「(b) 女性悩みごと相談」は女性の3人に1人が認知している一方で、男性の認知度は1割未満にとどまっています。



■ 各用語の「知っている」と回答した割合

各用語の「知っている」と回答した割合を性別にみると、全体として、社会的に広く普及している「(s) SDGs (持続可能な開発目標)」や「(i) 男女雇用機会均等法」の認知度は高いものの、DVや性的少数者に関連する比較的新しい概念や個別制度については、女性に比べて男性の認知度が著しく低い傾向にあります。



(35) 福生市審議会委員の女性比率への意識

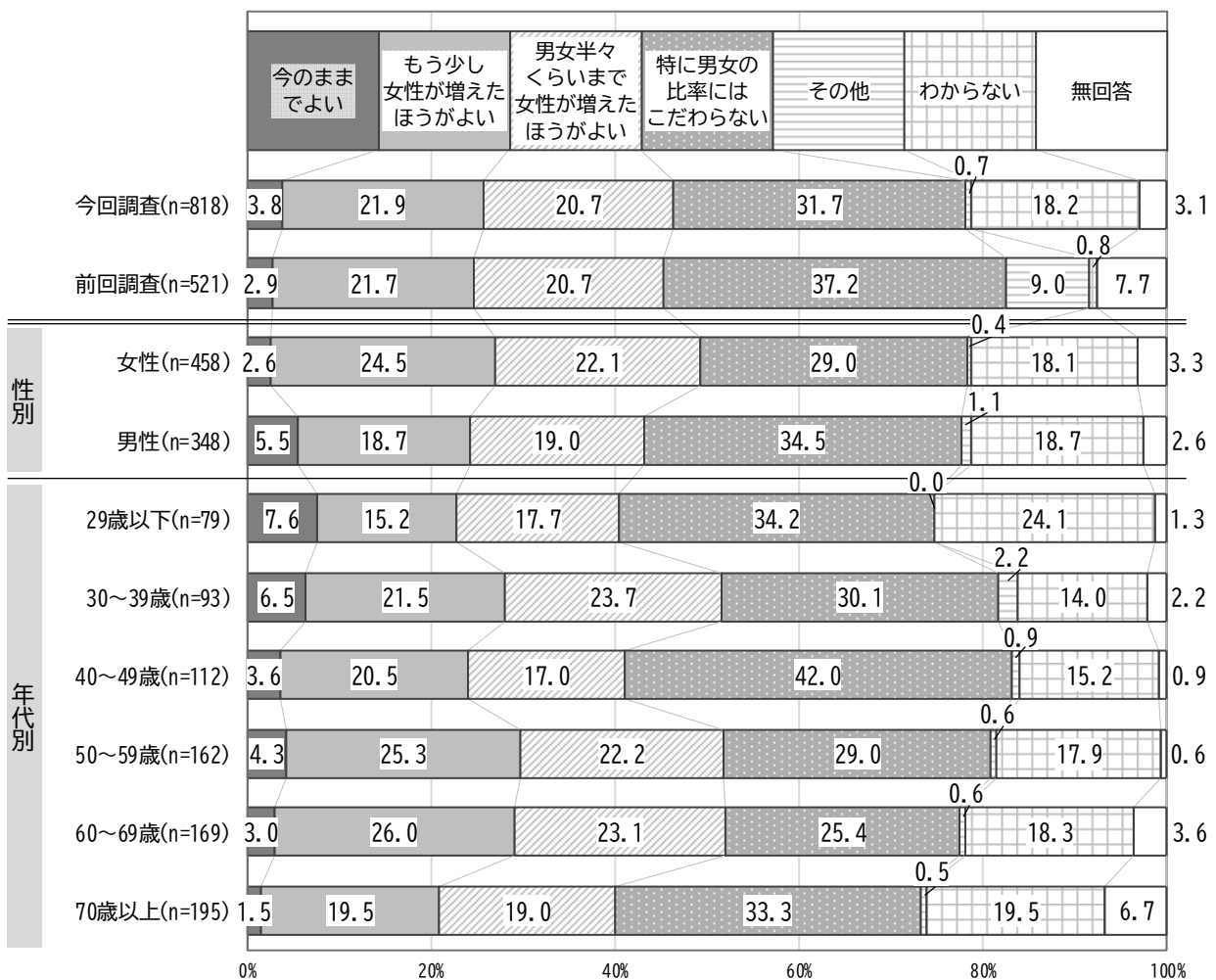
問 22 福生市で設置している審議会(地方自治法第 202 条の3)、委員会(第 180 条の5)等における女性委員の登用率は、令和6年度の実績値 28.7% (目標値 33.0%) です。これについて、あなたは どう思いますか。(〇は1つ)

福生市審議会委員の女性比率への意識について、「特に男女の比率にはこだわらない」(31.7%) が最も高く、次いで「もう少し女性が増えたほうがよい」(21.9%)、「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」(20.7%) となっています。

性別にみると、女性は女性委員のさらなる登用を求める割合が男性より高く、男性は「今のままでよい」や「特に男女の比率にはこだわらない」とする割合が比較的高くなっています。

年代別にみると、いずれの年代でも「特に男女の比率にはこだわらない」が高い傾向にあり、特に40～49歳でその傾向が顕著です。「もう少し女性が増えたほうがよい」は60～69歳で最も高く、「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」は30～39歳や60～69歳で他の年代に比べて高くなっています。また、29歳以下では「今のままでよい」が比較的高くなっています。

前回調査と比較すると、「特に男女の比率にはこだわらない」が5.5ポイント低下しています。

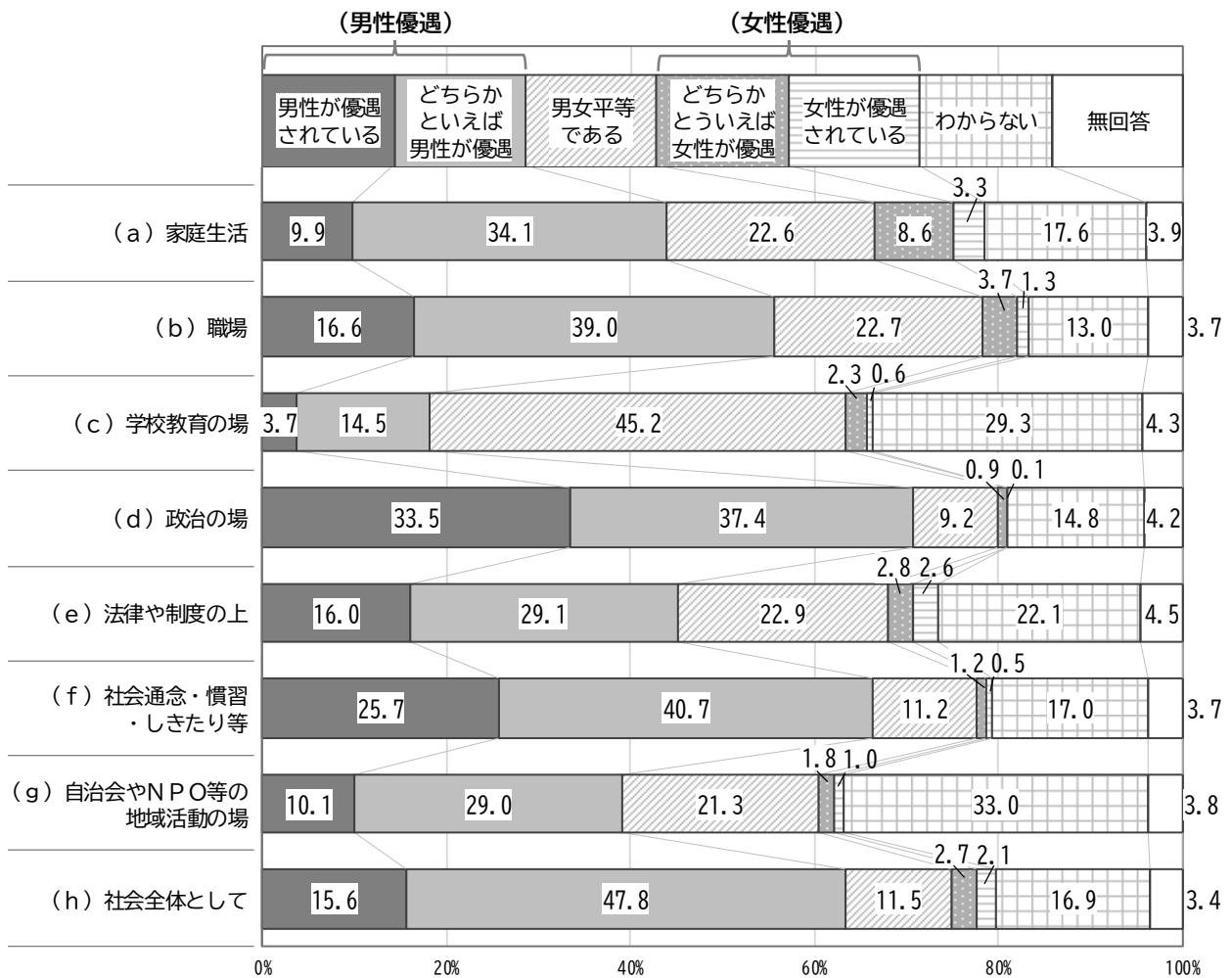


(36) 各分野における男女平等の実感

問 23 あなたは、次の分野で男女が平等になっていると思いますか。(aからhそれぞれ○は1つ)

各分野における男女平等の実感について、「男女平等である」の割合が高い項目は、「(c) 学校教育の場」(45.2%)が最も高く、次いで「(e) 法律や制度の上」(22.9%)、「(b) 職場」(22.7%)、「(a) 家庭生活」(22.6%)となっています。

一方で、「(d) 政治の場」、「(f) 社会通念・慣習・しきたり等」、「(h) 社会全体として」は男性優遇の割合が6割以上と高くなっています。



※『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇」の合計）

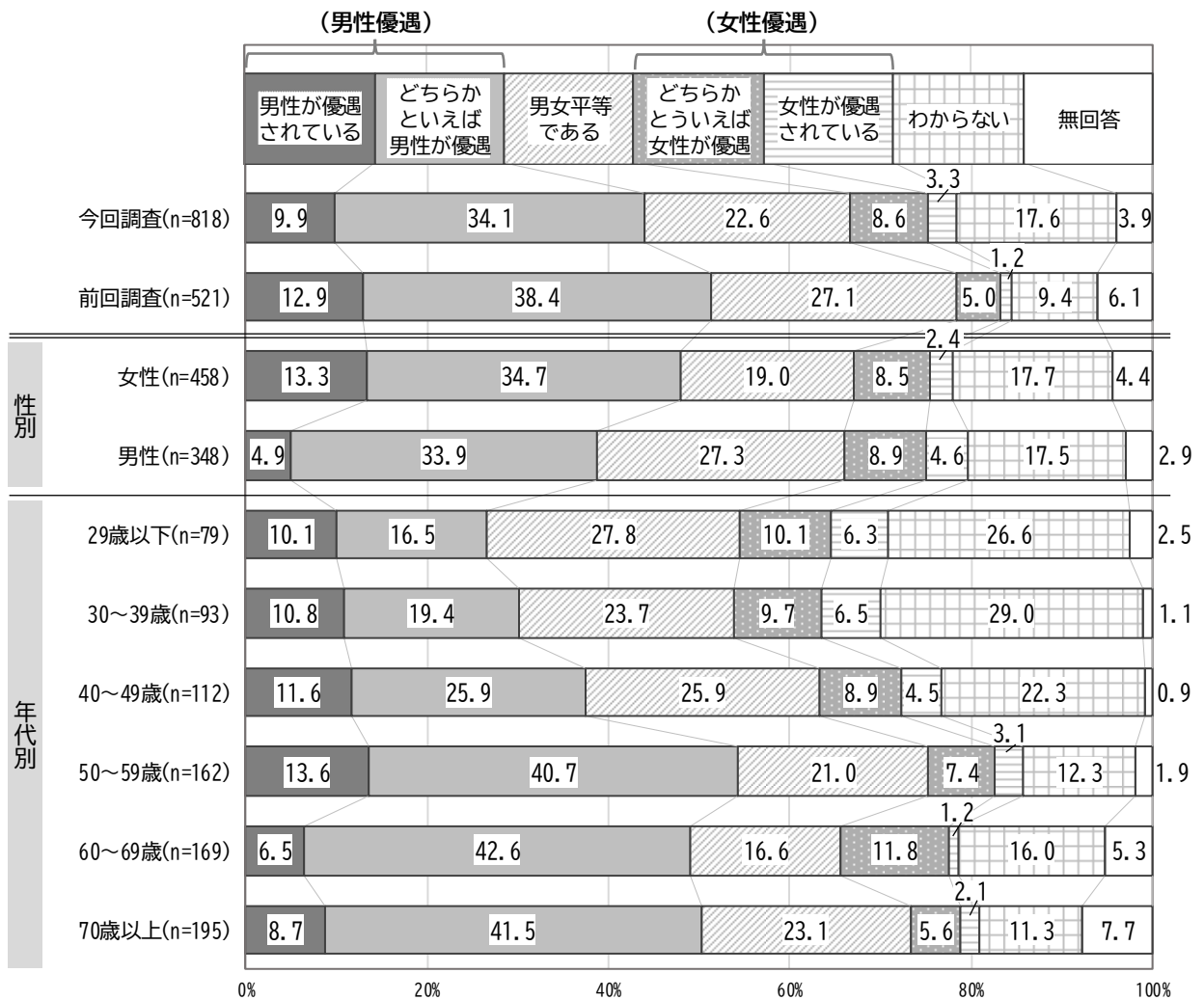
※『女性優遇』（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇」の合計）

■ (a) 家庭生活

家庭生活について、全体をみると、『男性優遇』の割合が高く、『女性優遇』を32.1ポイント上回っています。また、性別にみると、『男性優遇』は女性が男性を9.2ポイント上回っています。一方で、男性は「男女平等である」と回答した割合が女性より8.3ポイント上回っています。

年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は、50～59歳が最も高く、5割を超えています。一方で、29歳以下では「男女平等である」が他の年代に比べて高く、さらに『女性優遇』も高くなっています。

前回調査と比較すると、『男性優遇』が7.3ポイント低下しています。

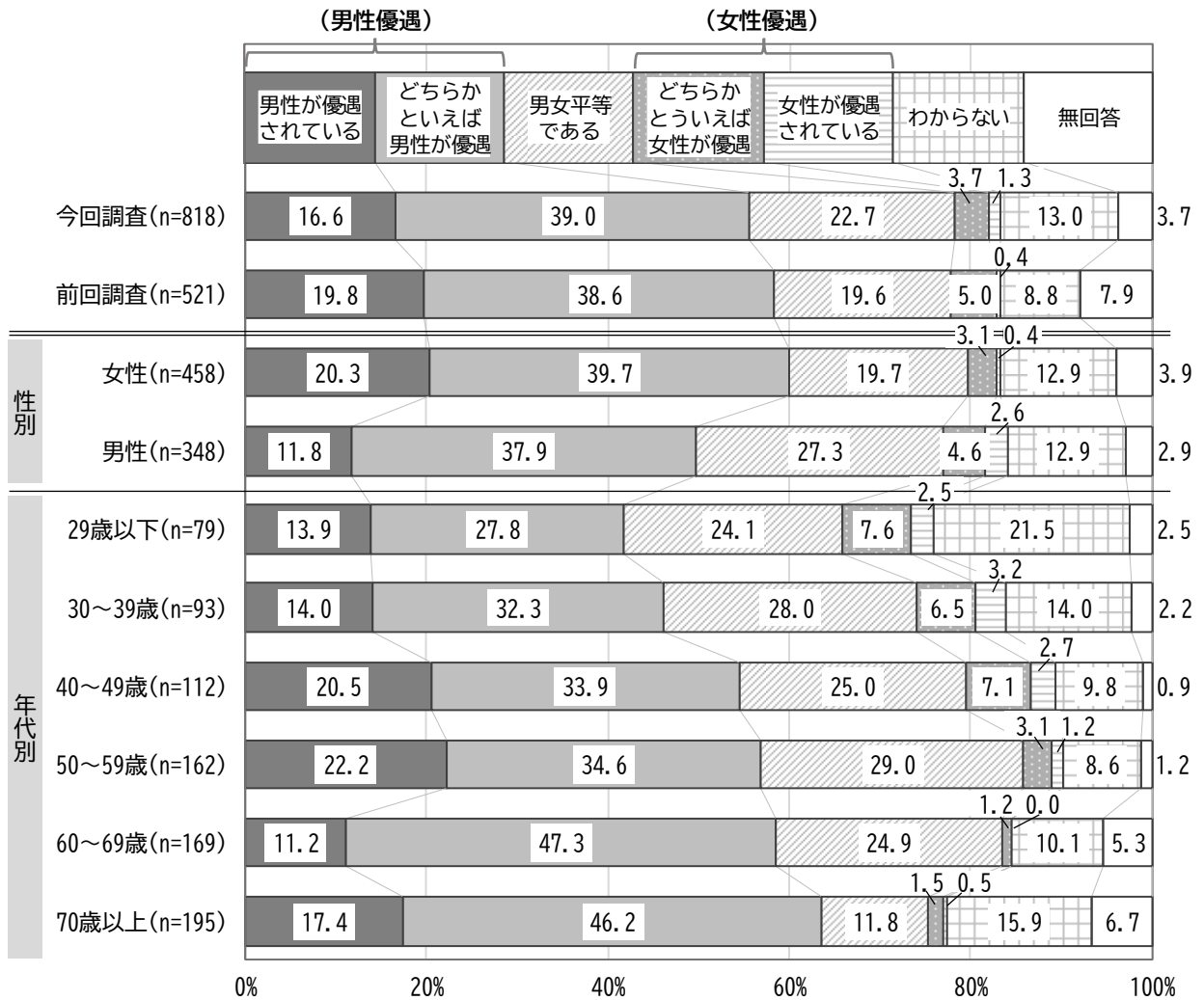


■ (b) 職場

職場について、全体をみると、『男性優遇』は5割を超え、『女性優遇』を50.6ポイント上回っています。また、性別にみると、『男性優遇』は女性が男性を10.3ポイント上回っています。一方で、男性は「男女平等である」と回答した割合が女性より7.6ポイント上回っています。

年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は、70歳以上が最も高く、年代が高くなるにつれて高い傾向がみられます。

前回調査と比較すると、「男女平等である」は3.1ポイント上昇しています。

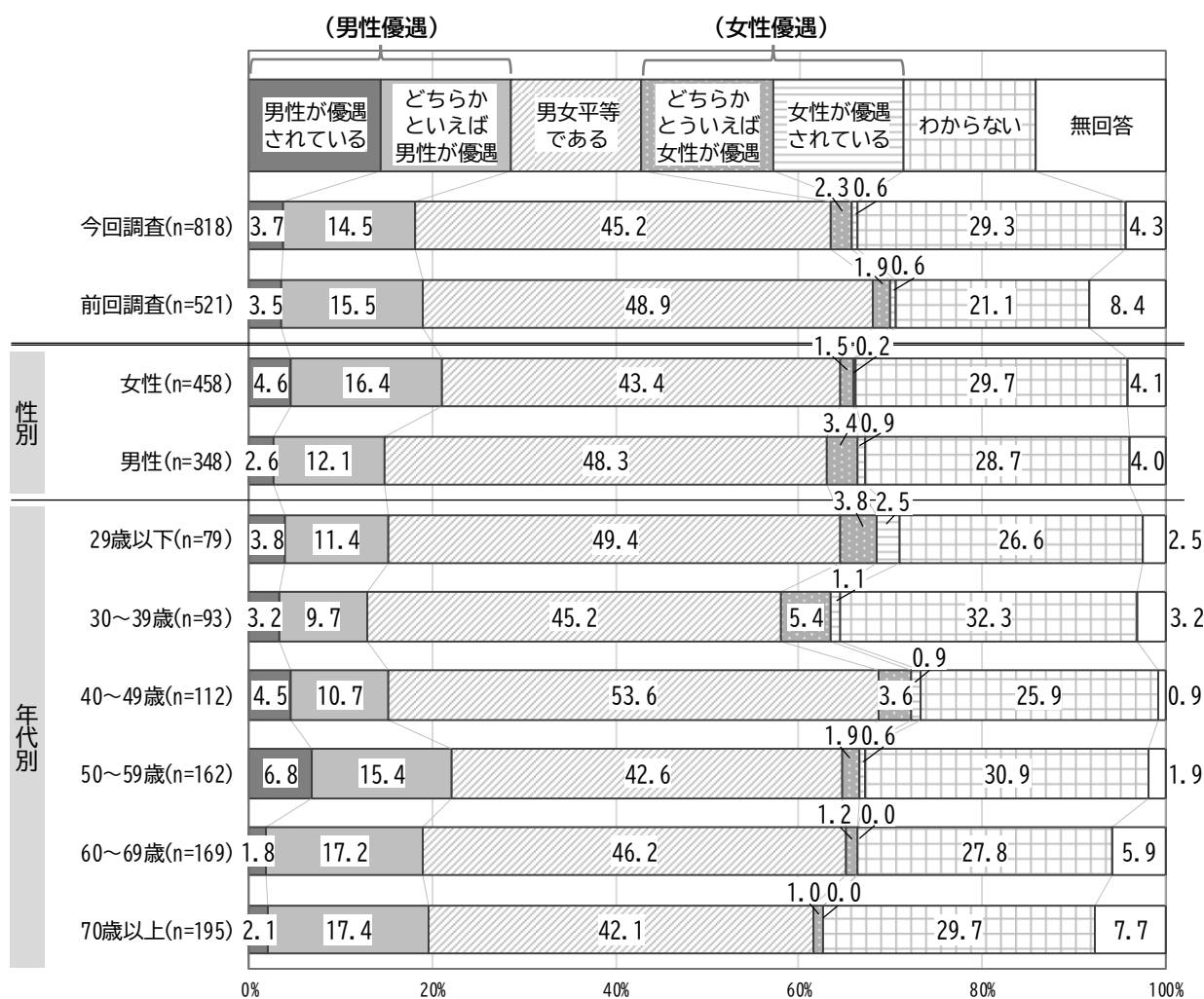


■ (c) 学校教育の場

学校教育の場について、全体をみると、「男女平等である」が4割を超え、最も高くなっています。また、性別にみると、「男女平等である」は男性が女性を4.9ポイント上回っています。一方で、女性は『男性優遇』が男性を6.3ポイント上回っています。

年代別にみると、「男女平等である」と回答した割合は、いずれの年代でも最も高くなっており、特に40～49歳でその傾向が顕著です。また、50～59歳では『男性優遇』が全年代で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「男女平等である」が3.7ポイント低下しています。

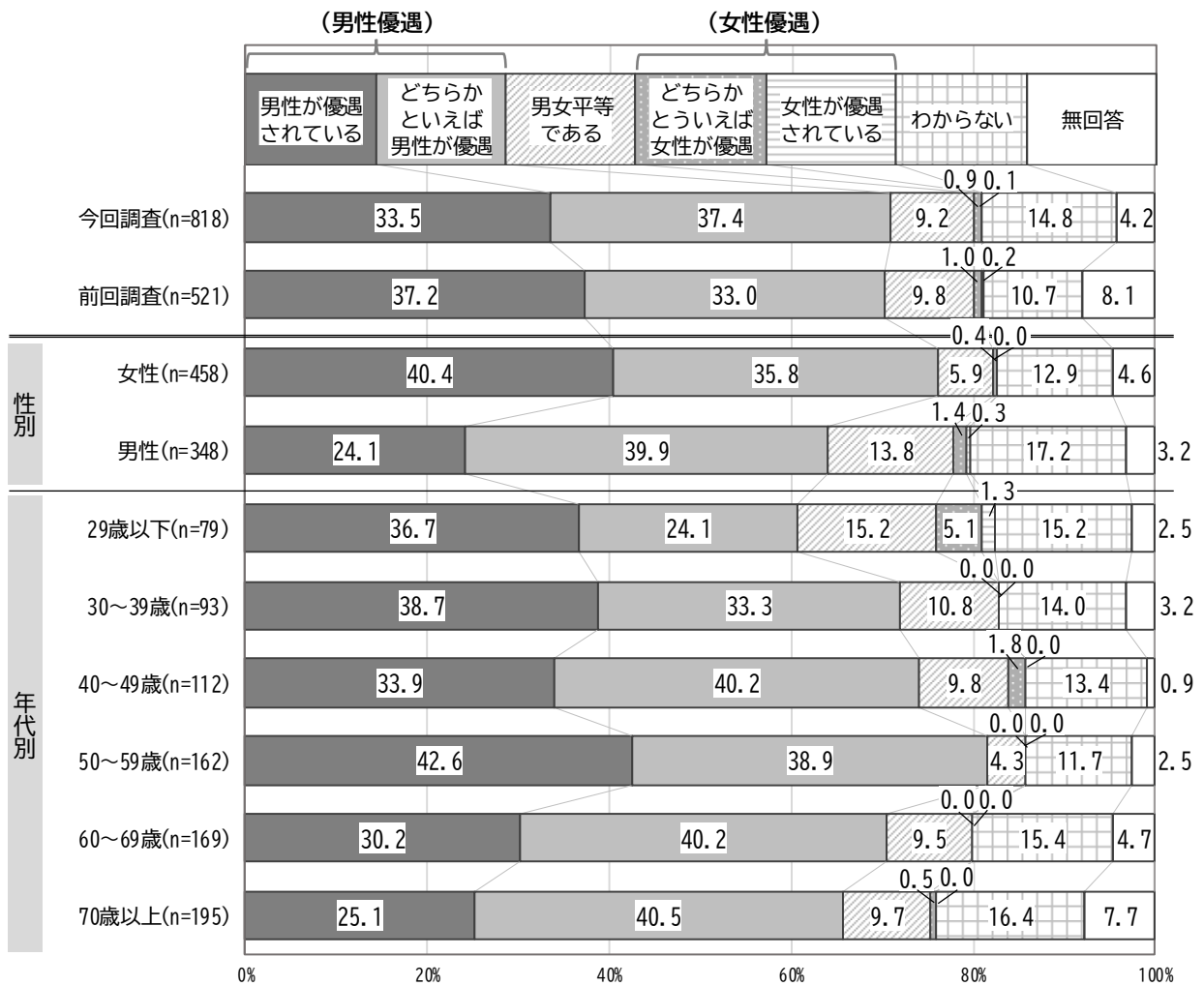


■ (d) 政治の場

政治の場について、全体をみると、『男性優遇』は7割を超え、『女性優遇』を69.9ポイント上回っています。また、性別にみると、『男性優遇』は女性が男性を12.2ポイント上回っています。一方で、男性は「男女平等である」と回答した割合が女性より7.9ポイント上回っています。

年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は、50～59歳が全年代で最も高くなっています。一方で、29歳以下では「男女平等である」が他の年代に比べて高く、さらに『女性優遇』も全年代で最も高くなっています。

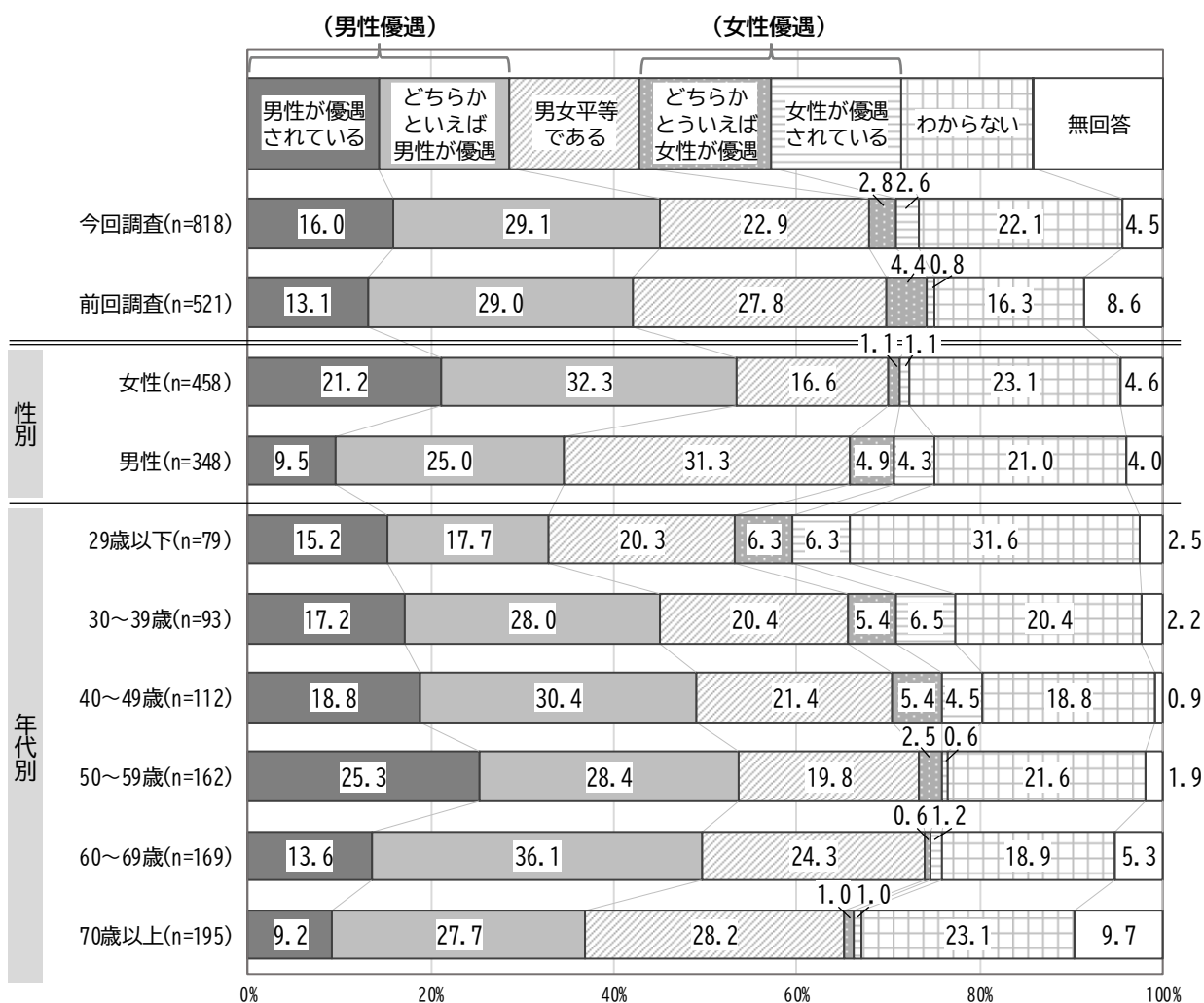
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



■ (e) 法律や制度の上

法律や制度の上について、全体をみると、『男性優遇』は4割を超え、『女性優遇』を39.7ポイント上回っています。また、性別にみると、『男性優遇』は女性が男性を19.0ポイント上回っています。一方で、男性は「男女平等である」と回答した割合が女性より14.7ポイント上回っています。

年代別にみると、『男性優遇』は、50～59歳が全年代で最も高くなっており、次いで60～69歳が続いています。一方で、29歳以下では『女性優遇』が12.6%と全年代で最も高くなっています。前回調査と比較すると、「男女平等である」は4.9ポイント低下しています。

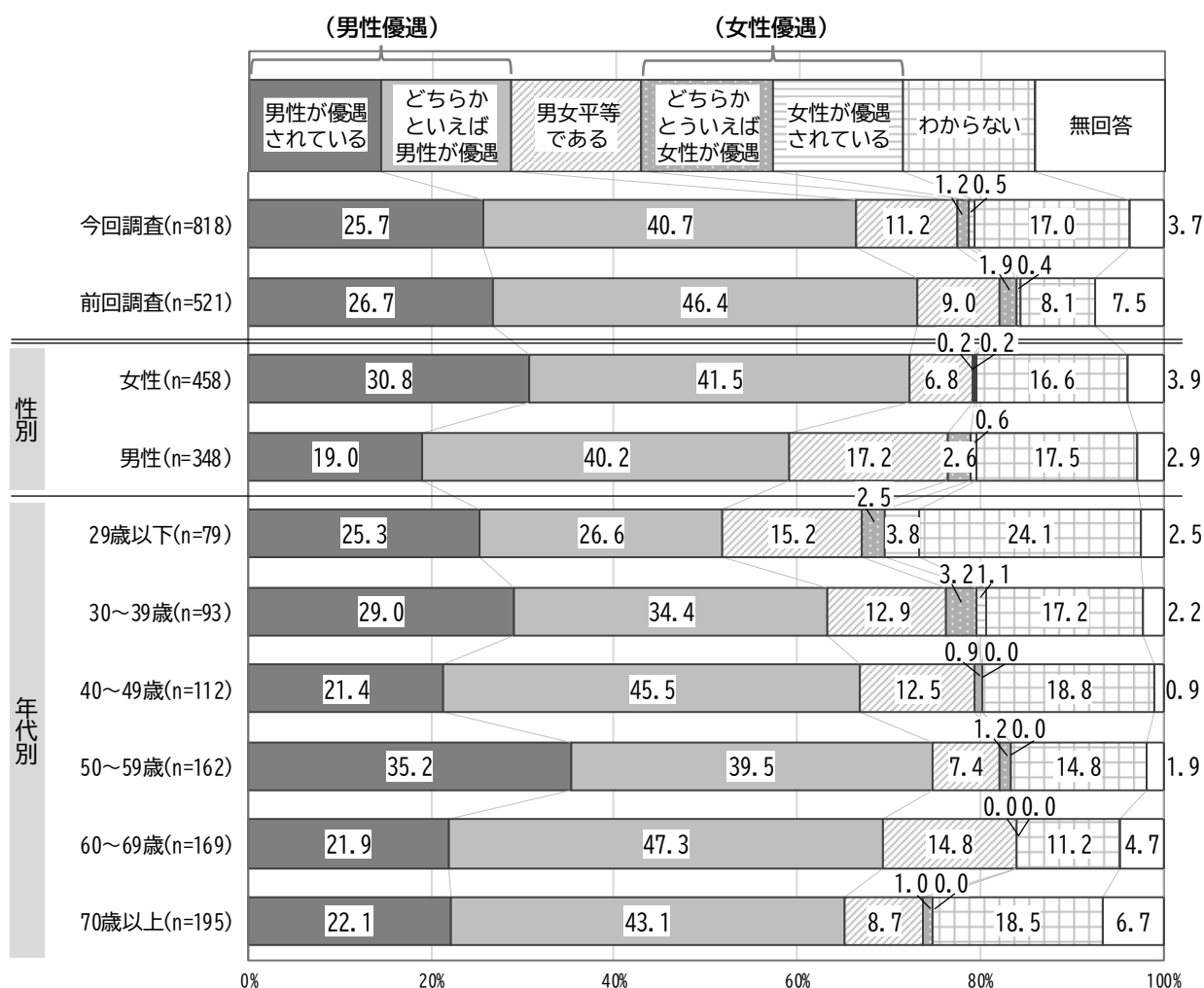


■ (f) 社会通念・慣習・しきたり等

社会通念・慣習・しきたり等について、全体をみると、『男性優遇』は6割を超え、『女性優遇』を64.7ポイント上回っています。また、性別にみると、『男性優遇』は女性が男性を13.1ポイント上回っています。一方で、男性は「男女平等である」と回答した割合が女性を10.4ポイント上回っています。

年代別にみると、『男性優遇』は、50～59歳と全年代で最も高くなっています。一方で、29歳以下では「男女平等である」が他の年代に比べて高く、さらに『女性優遇』も全年代で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、『男性優遇』が6.7ポイント低下しています。

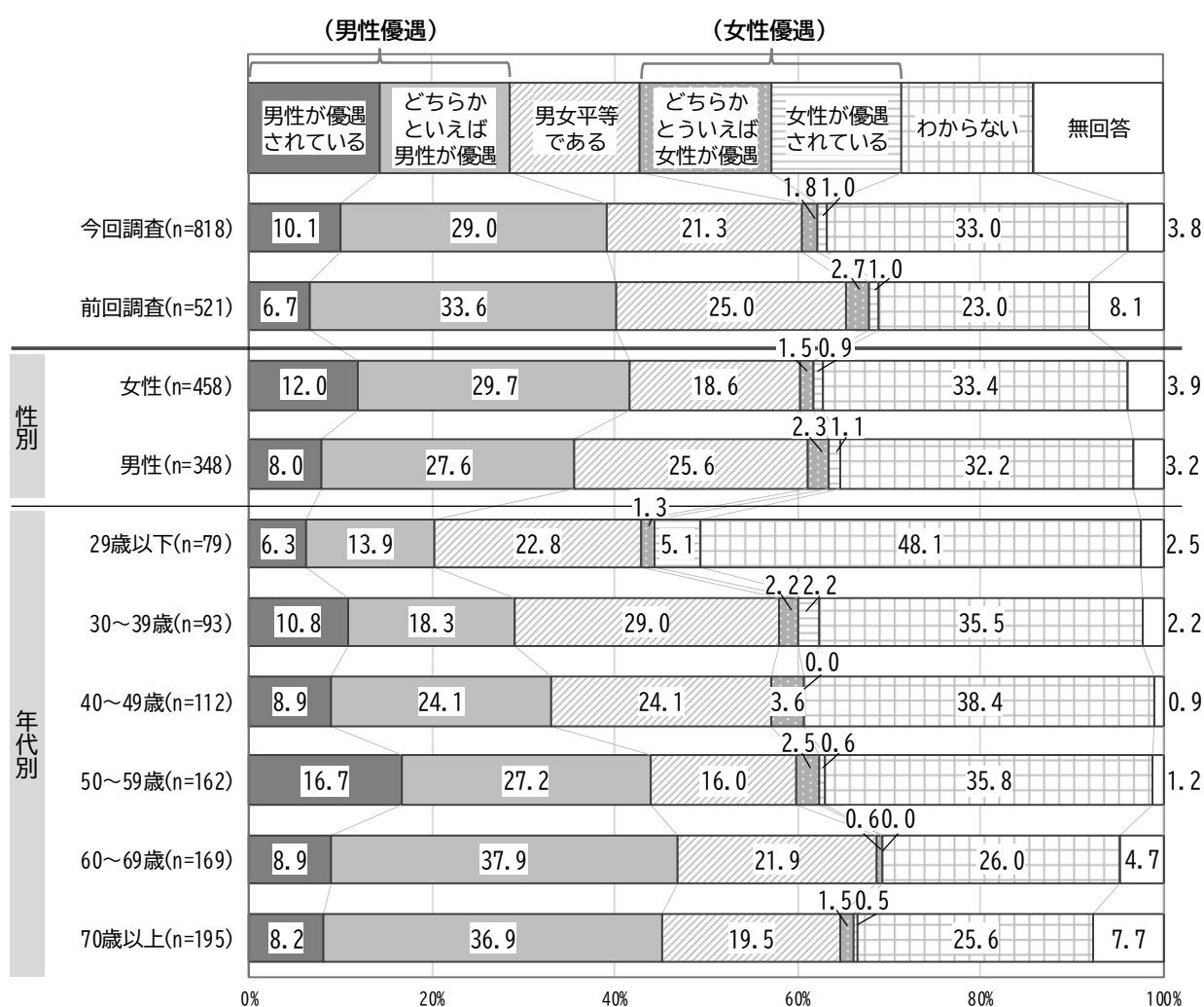


■ (g) 自治会やNPO等の地域活動の場

自治会やNPO等の地域活動の場について、全体をみると、『男性優遇』の割合が高く、『女性優遇』を36.3ポイント上回っています。また、性別にみると、『男性優遇』は女性が男性を6.1ポイント上回っています。一方で、男性は「男女平等である」と回答した割合が女性を7.0ポイント上回っています。

年代別にみると、『男性優遇』は、60～69歳が全年代で最も高くなっています。一方で、30～39歳では「男女平等である」が他の年代に比べて高くなっています。

前回調査と比較すると、「わからない」が10ポイント上昇しています。

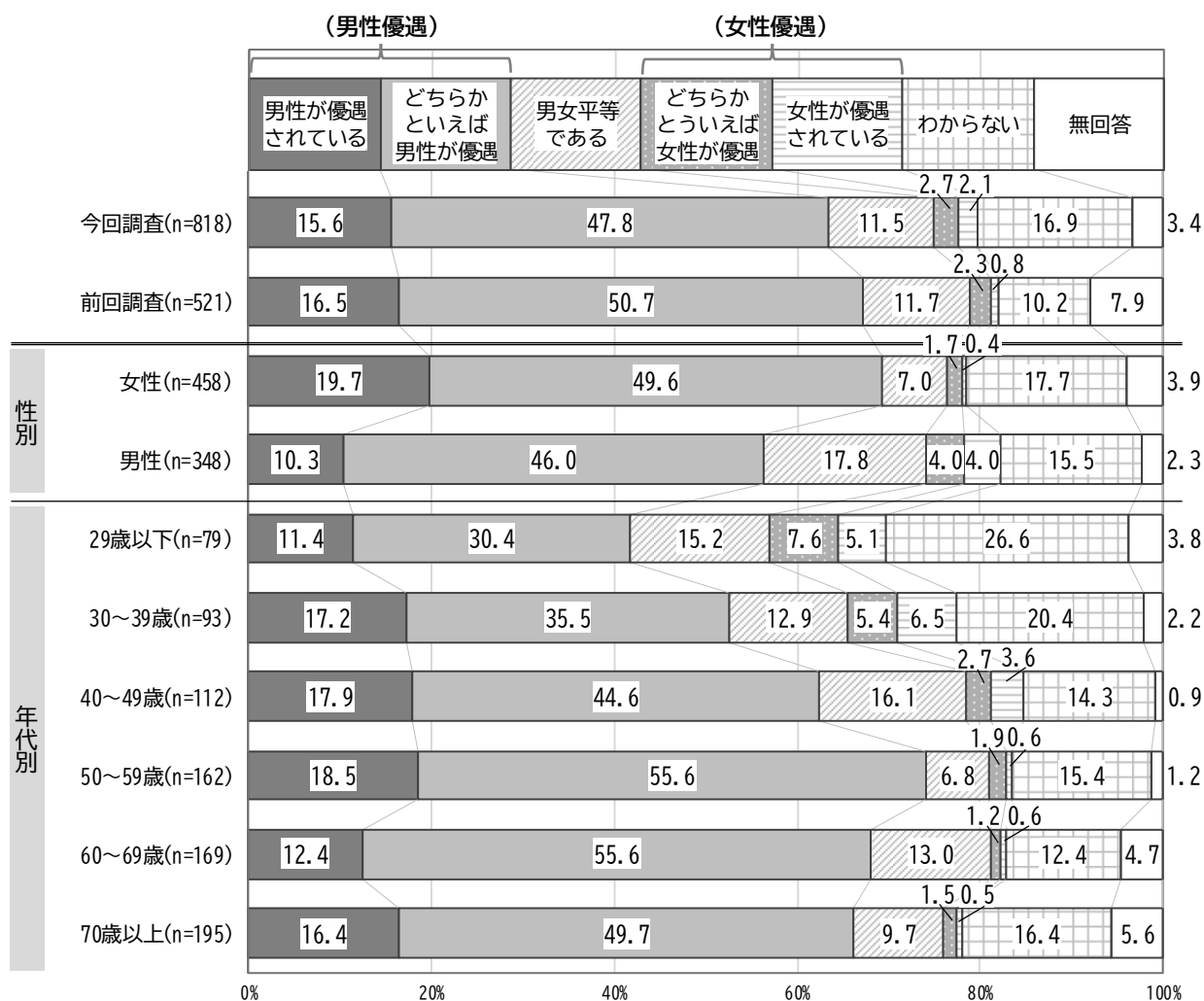


■ (h) 社会全体として

社会全体について、全体をみると、『男性優遇』が6割を超え、『女性優遇』を58.6ポイント上回っています。また、性別にみると、『男性優遇』は女性が男性を13.0ポイント上回っています。一方で、男性は「男女平等である」と回答した割合が女性の2倍以上となっています。

年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は、50～59歳が全年代で最も高く、次いで60～69歳が高くなっています。一方で、40～49歳では「男女平等である」が他の年代に比べて高く、さらに29歳以下で『女性優遇』が全年代で高い傾向にあります。

前回調査と比較すると、『男性優遇』が3.8ポイント低下しています。

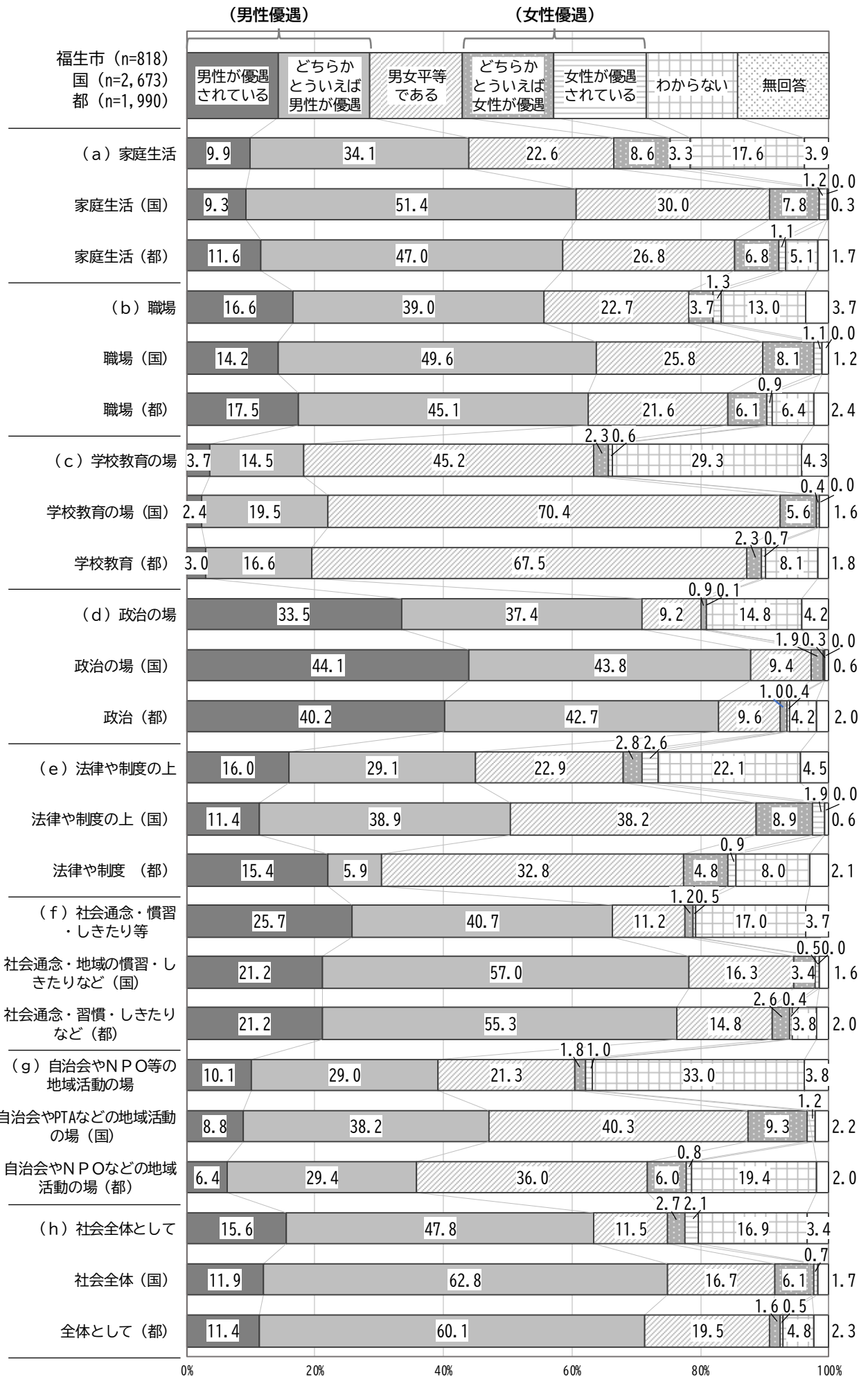


《国や都との比較》

いずれの分野においても、福生市は国や都の調査と比較して「男女平等である」と回答した割合が低い傾向にあります。特に「(c) 学校教育の場」では、国(70.4%)や都(67.5%)では「男女平等である」が約7割に達しているのに対し、市では45.2%にとどまっており、20ポイント以上の大きな開きがみられます。

また、「(d) 政治の場」や「(h) 社会全体として」といった項目では、国・都ともに『男性優遇』が7割以上と極めて高いのに対し、福生市では7割未満となっています。

※東京都「男女平等参画に関する世論調査(令和3年3月)」
 ※国「男女共同参画社会に関する世論調査(令和6年9月調査)」



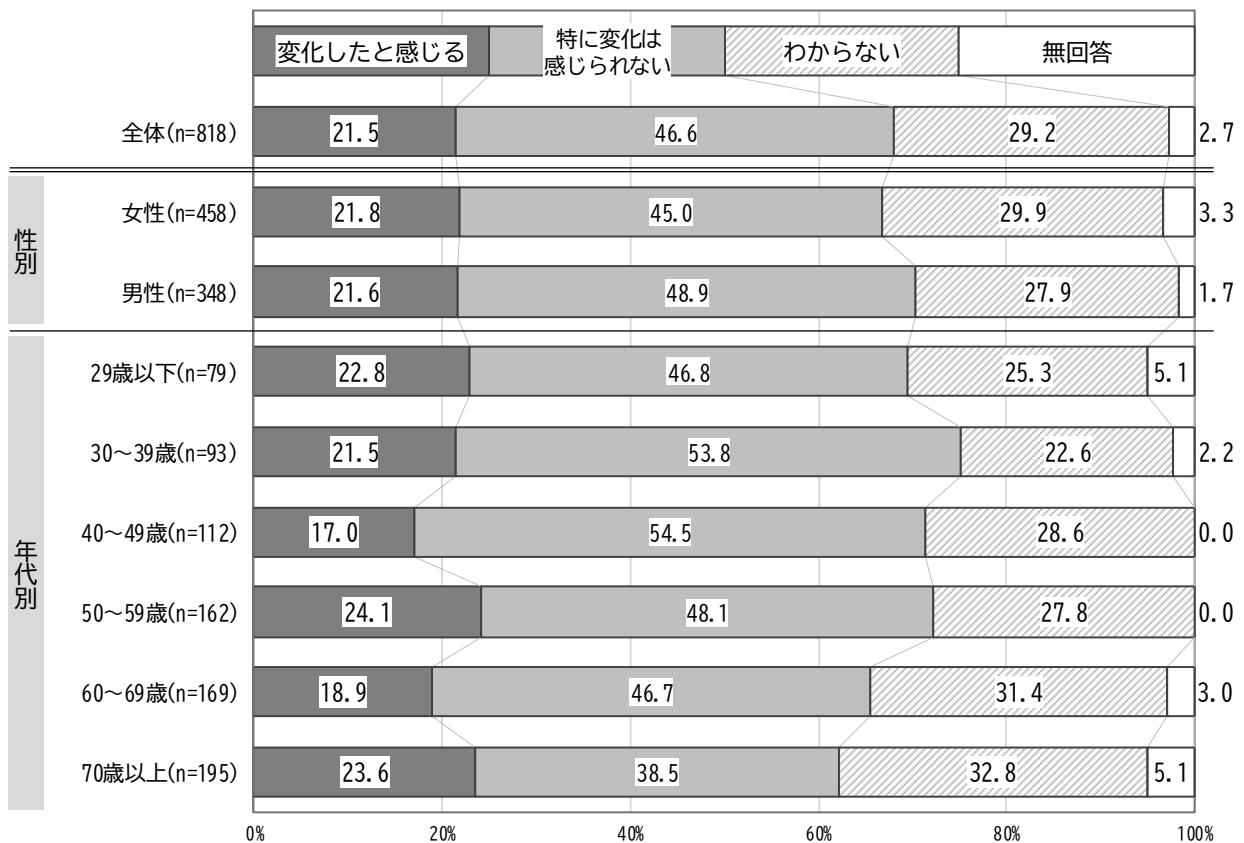
(37) 男女共同参画に対する意識や関心が変化したか

問 24 あなたは、最近、男女共同参画に対する意識や関心が変化したと感じますか。(○は1つ)

男女共同参画に対する意識や関心が変化したかについて、「変化したと感じる」は21.5%、「特に変化は感じられない」が46.6%となっています。

性別にみると、男女で大きな差はみられず、概ね同様の傾向が示されています。

年代別にみると、50～59歳で「変化したと感じる」が最も高くなっており、次いで70歳以上が続いています。一方で、40～49歳や30～39歳では「特に変化は感じられない」が半数を超え、他の年代に比べて高い傾向にあります。



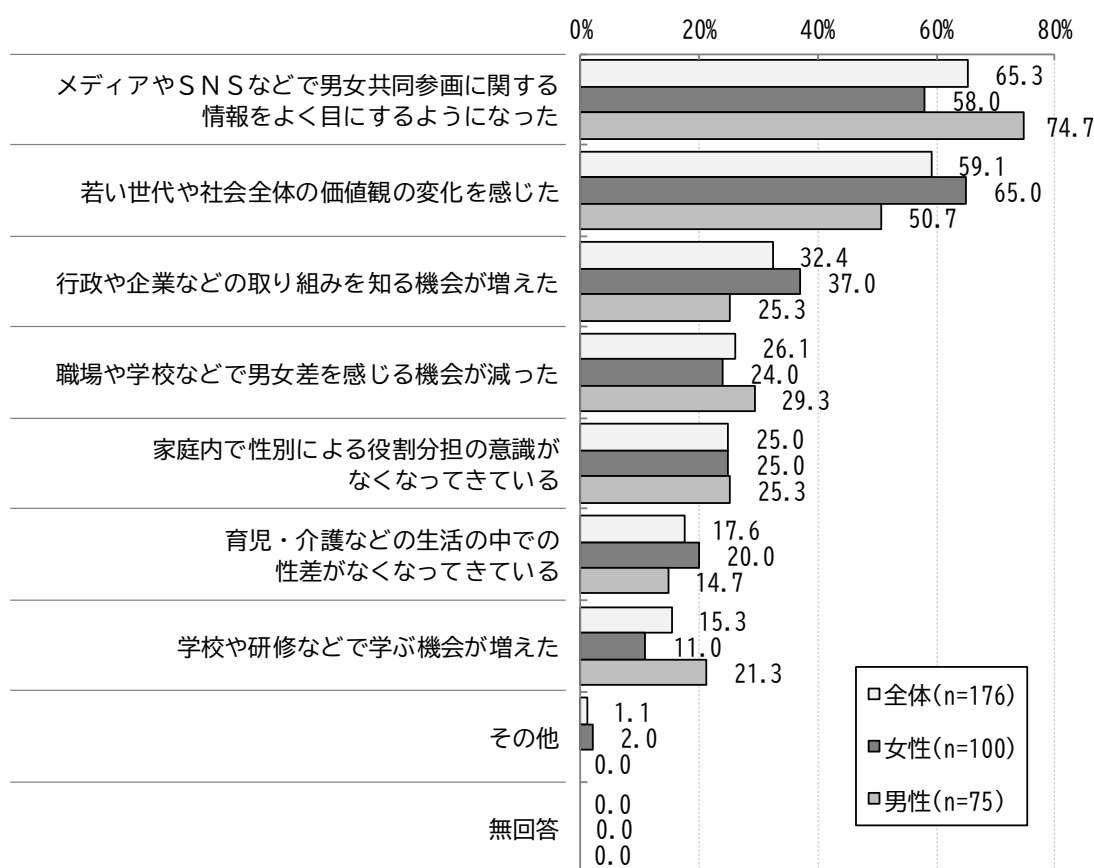
(38) 男女共同参画に対する意識や関心の変化を感じた理由

【問 24 で「変化したと感じる」を選択した方】

問 24-1 変化を感じた理由は何ですか。(〇はいくつでも)

男女共同参画に対する意識や関心の変化を感じた理由について、「メディアやSNSなどで男女共同参画に関する情報をよく目にするようになった」(65.3%)が最も高く、次いで「若い世代や社会全体の価値観の変化を感じた」(59.1%)、「行政や企業などの取り組みを知る機会が増えた」(32.4%)となっています。

性別にみると、男性は「メディアやSNSなどで男女共同参画に関する情報をよく目にするようになった」が高い一方、女性は「若い世代や社会全体の価値観の変化を感じた」が高く、変化の捉え方に違いがみられます。



年代別にみると、意識や関心の変化を感じた理由について、多くの年代で「メディアや SNS などで男女共同参画に関する情報をよく目にするようになった」が最も高くなっています。一方で、40～49 歳では「若い世代や社会全体の価値観の変化を感じた」が最も高くなっています。また、50～59 歳では「若い世代や社会全体の価値観の変化を感じた」が「メディアや SNS などで男女共同参画に関する情報をよく目にするようになった」と同率で最も高くなっています。さらに、30～39 歳では「育児・介護などの生活の中での性差がなくなってきた」が他の年代に比べて高い傾向にあります。

	メディアや SNS などで男女共同参画に関する情報をよく目にするようになった	若い世代や社会全体の価値観の変化を感じた	行政や企業などの取り組みを知る機会が増えた	職場や学校などで男女差を感じる機会が減った	家庭内で性別による役割分担の意識がなくなってきた	育児・介護などの生活の中での性差がなくなってきた	学校や研修などで学ぶ機会が増えた	その他	無回答
今回調査(n=176)	65.3	59.1	32.4	26.1	25.0	17.6	15.3	1.1	0.0
29歳以下(n=18)	66.7	50.0	33.3	11.1	27.8	16.7	22.2	5.6	0.0
30～39歳(n=20)	55.0	40.0	30.0	25.0	30.0	40.0	25.0	5.0	0.0
40～49歳(n=19)	57.9	63.2	21.1	26.3	21.1	21.1	26.3	0.0	0.0
50～59歳(n=39)	64.1	64.1	33.3	33.3	17.9	12.8	12.8	0.0	0.0
60～69歳(n=32)	62.5	50.0	28.1	46.9	25.0	15.6	12.5	0.0	0.0
70歳以上(n=46)	76.1	71.7	37.0	10.9	30.4	10.9	8.7	0.0	0.0